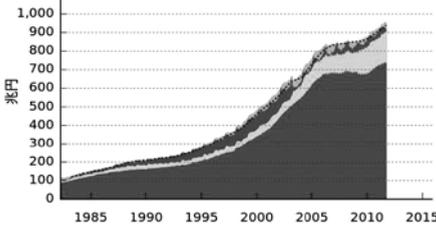




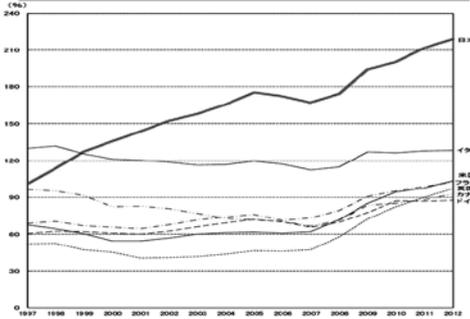
(表1) 赤字国債発行額



**深刻な日本の財政赤字**  
少子高齢化と景気低迷の長期化により、表1のとおり、日本の赤字国債の発行額はすでに900兆円を越えており、日本全体の債務残高は国民一人当たり950万円の借金があります。また表2のとおり、赤字国債発行額

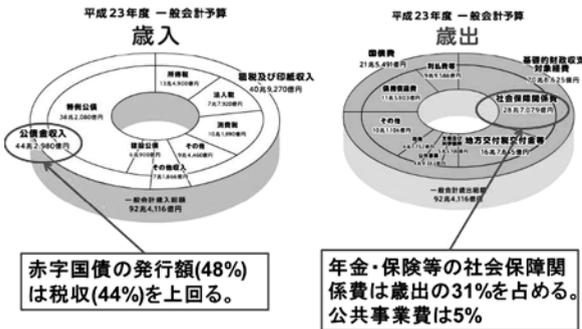
国および地方の長期債務残高は900兆円を越える。借入金、政府短期証券を含む日本全体の債務残高は国民一人当たり950万円

(表2) 赤字国債対GDP比



赤字国債発行額の対GDP比は210%を越える。

(表3) 歳入・歳出内訳



赤字国債の発行額(48%)は税収(44%)を上回る。

年金・保険等の社会保障関係費は歳出の31%を占める。公共事業費は5%

今月のマネーの教訓

将来的な海外リタイアを考えていない人にとつても、最低限の外貨建て商品は自分と家族の生活を守るための保険として保有しておくべき。

外貨資産を保有すべき理由

の対GDP比は200%を越えており、他の先進国と比較しても非常に厳しい財政状況となっています。

ロシア危機から学ぶ

が破綻するストーリーが現実を帯びてきます。

そのため、万が一の時の保険として外貨資産が有効に機能することになります。

仮に日本国債が破綻して、1ドル11千円を超えるハイパーインフレが発生したら、外貨で保有していた資産は10倍以上に価値が増えることになり、外貨を日本円に戻すだけで資産価値を保全することができま

さらに表3で分かるとおり、歳入の中で赤字国債の発行額が税収を上回る状況は健全とは言えず、歳出の中で最も多い年金・保険等の社会保障関係費は今後の少子高齢化の進行によってさらに膨張し続けていくことが予想されます。政府が社会保障関係費を抑制する対策を何もしなければ、遅かれ早かれ日本の国家財政

戻すだけで資産価値を保全することができま

1998年のロシア危機のとき、ロシアの資産家が通貨ルーブルの暴落を事前に予測して、保有資産の一部を海外に移動させて資産を守った歴史に日本人も学ぶべきだと思えます。



“年金支給開始年齢70歳”時代に備える

「海外で作る自分年金セミナー」隔月1回開催中(参加費無料)

主催：Kenshin Asset Consulting (Hong Kong) Co.,Ltd.

▶ 年金・保険・教育費対策プランの無料相談受付中！

▶ 個別相談のお申込みはメールもしくはお電話で

http://www.kenshin.com.hk/ 社長ブログ：http://blog.explore.ne.jp/kitsu/

\\ 個別のご相談も随時受付中！ /

セミナーのお申込はメールもしくはお電話で

info@kenshin.com.hk

TEL:+852-2567-1366 (平日9時~18時)

住所: Room 2302, 23/F, North Point Asia-Pac Commercial Centre, No.10 North Point Road, Hong Kong